

スポンサーシップに対する適切なアプローチとは？

『適切なアプローチ』というものはありません。それぞれのスポンサーが、その人なりの経験を基に自由にスポンサーシップを提供します。指示することの多いスポンサーもいれば、カジュアルなスポンサーもあります。プログラムのアウトラインを設定する人、ニューカマーに自分なりにプログラムを实践させ、訊ねられたときだけ指導する人もいます。自分自身のスポンサーとの経験を出発点とし、そこから関係を築き上げる人が多いのですが、スポンサーは一人一人違います。アプローチの仕方によっては失敗することもあります。自分自身のソブライエティ以外、スポンサーは他の誰のソブライエティにも責任がありません。

スポンサーシップが何故スポンサーに役立つのか？

関係の中で交わされるコミュニケーションとお互いにシェアすることがスポンサー、スポンシーのどちらにも役に立つのです。スポンサーにとっても自分自身のプログラムに対する理解が深まります。スポンサーがプログラムの基本原理に焦点を戻し、ステップワークを行い、その人自身のスポンサーとコミュニケーションをとるといことも珍しくありません。

一人の人が何人ものスポンサーになれるか？

これはスポンサー本人にしか答えられません。プログラムのために費やす時間とエネルギーは人によって違いますから。ただし、責任を取りすぎることのないよう注意する必要があります。スポンサーシップとは回復するアディクト2人間の特別な関係なので、それを維持できる人数には限りがあります。スポンサーシップを過度に受け持つと、エゴが強くなる、自分自身のプログラムに費やす時間がなくなる、心の平安を損なうなどの恐れがあります。

自分のスポンシーがヘルプを望まない場合は何をしたらいいのか？

することはあまりありません。希望されたらヘルプする意志があることだけは伝えてはおきますが、欲しくもないアドバイスやヘルプを他の人に押しつけても無駄です。スポンシーの怒りをスポンサーが経験することもあります。プログラムと自

分自身のスポンサーから遠ざかることがなければ、普通は、自分またはその関係を傷つけることなくその怒りに対処できます。

スポンサーするのを止めるには？

単に、その人に対しスポンサーでいられなくなったことを伝えるという責任を取るだけのことです。その理由を話し、できれば連絡を取り続けるよう申し出ることは大切です。その理由が自分のプログラムと平安に影響を及ぼす問題ということであれば、ニューカマーと話しをする前に他のメンバー及び自分自身のスポンサーと相談しておくべきです。スポンシーの置かれている状況に精通したスポンサーが他にいれば、回復のプロセスの中で、そのスポンサーの方に移れるようスポンシーを手放すことは良くあります。

スポンサーシップで薦められること：

自分の生活の中でこのプログラムがどのように役立っているか、その例を紹介する。

ミーティングに出席することを薦める。

プログラムの他のメンバーにニューカマーを紹介する。

12ステップの文献への理解が深まるようニューカマーをヘルプする。

スポンシーが回復に積極的に参加するよう奨励する。

自分の経験・強さ・希望をシェアする。

人を裁くことは避ける。

自分の個人的見解を押し付けないようにする。

他人の棚卸しをしない。

ニューカマーの代わりに決断を下さない。

答えを全部持っている振りをしてない。

何よりもこのプログラムのキーとなるものは、フェロウシップだということを忘れずに。自分自身の回復、他の人の回復に参加するという貴重な機会が提供されているのです。自分が無償で与えられたものを人に無償で与えることです。

コンフェレンス承認文献

© 1998年マリファナ・アノニマス

全著作権所有

P-02 6-98

スポンサーシップについて About Sponsorship



マリファナ・アノニマス

マリファナ・アディクトのための 12ステップ・プログラム

Marijuana Anonymous

World Service

P.O. BOX 2912

Van Nuys, CA 91404 USA

Toll Free: 1-800-766-6779

<http://www.marijuana-anonymous.org>

コンフェレンス承認文献

P-02

スポンサーシップとは？

スポンサーシップとは回復するアディクトがもう一人の回復するアディクトに話をするを言います。シェアすることで、お互いの人生が豊かになります。スポンサーとスポンシーは同等の立場で会い、ミーティングに毎週一緒に出席し、リカバリーの問題の話をし、ステップワークを行い、プログラムを実践します。

ニューカマーにとってスポンサーとは特別な人です。スポンサーに問題を色々話したり、質問をしたりすることで、1 2ステッププログラムを通してリカバリーへの理解を深めることができます。

スポンサーは必須とされるか？

いいえ。スポンサーシップはリカバリーに重要で貴重な補助となるものですが、必須ではありません。

スポンサーを持つことは大切か？

はい。スポンサーとの人間関係はリカバリーの中での大切なツールとなります。その関係が、人を信頼する能力を養い、効果的にコミュニケーションを図る始まりとなることがよくあります。プログラムのほかのメンバーと頻繁かつ親密に連絡を取ることに、グループの前で話したくない問題をプライベートに対処する機会が提供されます。

スポンサーはどうやって見つけるか？

個人として、またリカバリー上で自分が尊敬できる性格を持つ人にスポンサーになってもらうよう頼むのが一般的です。スポンサーの候補者に、リカバリーのステップを全て終わらせるだけのクリーン（ソーパー）タイムがあるとそれが役立ちます。スポンサーを選ぶには、できるだけミーティングに出席し、回復するアディクトに出会う機会を広げることが一番です。スポンサーを選ぶのに別に特別なルールがある訳ではありませんが、成功した、幸せな人生を歩んでいる人は考慮するだけの価値があります。

スポンサーを選ぶ際、恥ずかしい、やるべきことをぐずぐず延ばす癖、または他の人に自分を押しつけるのが怖いなどといった壁をどうした

ら乗り越えられるか？

スポンサーを作るのは結婚するのとは違います。長期間一緒にいるという約束も交わしません。一時的スポンサーになってくれるよう頼み、それでその人間関係がどのように成長するか様子を見るということもできます。人に助けを求めることへの恐れ・・・それを超越することが大切です。実際、スポンサーを依頼されるのは名誉なことなのです。自分の問題がその人の重荷になるなどということはないので、それを言い訳にして、スポンサーシップを避けることはできません。

スポンサーは同性であるべきか？

そうです。感情的に入り込んだり、家族との関係が複雑になったりする可能性が少ないので、ほとんどの場合はそれが正解です。同性のスポンサーであれば男性（または女性）特有の問題を理解してくれることがよくあります。

スポンサーを換えたい場合は？

その場合は換えることです。他の人の方が自分のリカバリーが向上すると思うのであれば、その人の特定の経験を活用したいからスポンサーを換えたいということ、今のスポンサーに優しく伝えるのが礼儀です。これは1 2ステップ・プログラムではよくあることで、『ロングタイマー』の人もその多くが何人かスポンサーを換えています。

スポンサーへはどの程度頻繁に連絡するべきか？

最初の1～2ヶ月は毎日電話するようにというスポンサーが多いのですが、これはスポンサーとあなたとの間で決めることです。スポンサーが出かけていたり、連絡が取れないような場合は他のメンバーに電話するのが賢いでしょう。どの道、数人の人へ定期的に電話連絡するのは良いことですから。

スポンサーから頼まれることは何でも行い、言われることには何でも同意すべきか？

いいえ。確認が必要だったり、同意できないことが起きたら、二人の間でオープンに話し合いをするべきです。あなたのリカバリーはあなた自身に責任があるのですから。スポンサーのアドバイスには耳を傾けるべきですが、うまく行かない場合は、

課題をこなせると思えるスポンサーを見つけることです。プログラムにランクはありません。あなたとスポンサーとの関係とは信頼できる、経験をシェアできる関係なのです。

スポンサーになることについて：

誰かのスポンサーになると同意したからといって、その人のソブライエティやリカバリーに対する責任がある訳ではありません。スポンサーシップとはお互いの尊敬と、プログラムの原理に基づく両方通行の人間関係なのです。

誰がスポンサーになれるか？

MA プログラムのメンバーまたは、薬物依存から回復するほかの1 2ステップ・プログラムのメンバーなら誰でもスポンサーになれます。

自分がスポンサーとして務めることができると思えるのはいつ頃か？

自分の身についたものを分かち合えらと思ったらスポンサーになれます。普通はステップを一通り終わらせ、ある程度『経験・強さ・希望』をシェアできるくらいのソブライエティが身についていた方がいいでしょう。一人の人に時間と努力を費やし、寛容でいられる、そしてリカバリーの経験を分かち合うだけの意志があれば、おそらくスポンサーになってもいい時期でしょう。

スポンサーになるにはどうしたら良いか？

人から依頼されるのを待つか、単にミーティングでスポンサーを務められるとアナウンスするのが普通です。

頼まれたらその人のスポンサーにならないといけないか？

いいえ。1 2ステッププログラムでは、そんな義理はありません。もし誰かをスポンサーするのが自分にとって楽でないとしたら、丁寧に断り、自分以外の人に頼むよう励ますことが大切です。ただし、スポンサーシップには色々恩恵となるものがあるので、スポンサーを依頼された場合、ほとんどのメンバーはそれを引き受けます。